

第 42 回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第 54 回全国高等学校将棋選手権大会）

愛知県大会の報告

今年（2018 年度）は 5 月 4 日（金）・5 日（土）の 2 日間、将棋に青春をかける県内の高校生が、名古屋高校に集まった。この大会は愛知県高校将棋連盟、愛知県高文連、日本将棋連盟東海普及連合会・愛知県支部連合会、中日新聞社の共催で、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、愛知県私学協会の後援を受けている。

大会結果を簡単にお伝えする。5 月 6 日の中日新聞朝刊にも、大会の様相と結果が写真つきで掲載された。そちらもご覧いただきたい。

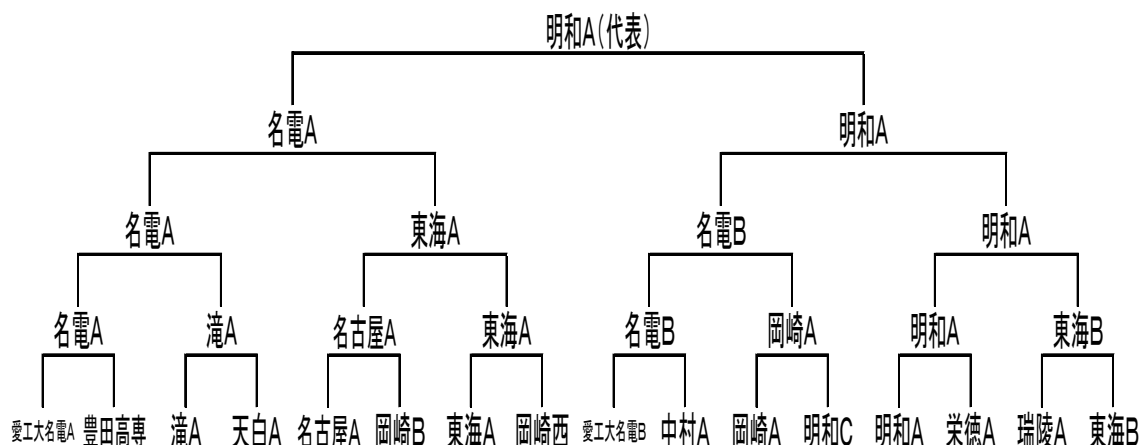
★ 団体戦 5 月 4 日

初日は団体戦（3 人 1 チーム）で、1 校から何チームでも出場できる。男子は 28 校から計 56 チームが、女子は 2 校から計 2 チームが参加した。

男子団体は 4 チームをひと組にして総当たりの予選リーグを行い、各組 1 位の 14 チームと、2 位チームのうち成績上位の 2 チームの計 16 チームが決勝トーナメントに進出した。午後のトーナメントでは今年も名電 A B 両チームが主役で、準決勝で名電 A が東海 A に勝った時点で、メンバーの 3 人全員が無敗だった。決勝はその名電 A と明和 A の対戦に。まず大将戦を名電が取り、副将戦の相穴熊戦は明和が制して、三将戦が残った。序盤から相居飛車の乱戦模様で名電が優勢と思われたが、終盤で逆転。有力な新入生の加入と「将棋部 T シャツ」で結束を見せた明和が、6 年ぶりの優勝を飾ることになった。

女子団体は 2 チームによる決戦で、持ち時間を 40 分と長くして対戦した。その結果、南山女子部が 2 勝 1 敗で瑞陵に勝って優勝を果たした。

～男子団体戦決勝トーナメント～



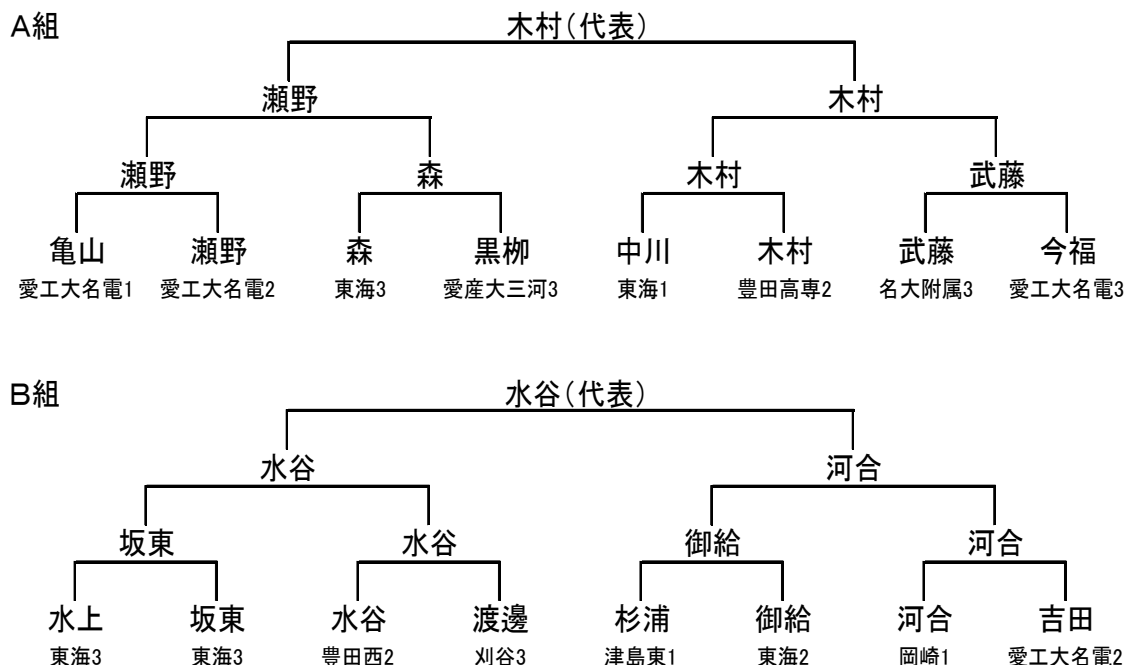
★ 個人戦 5月5日

翌5日（土）には個人戦が行われた。前日の団体戦で優勝した選手を除き、男子は41校253名が、女子は6校7名がそれぞれ上位2名の代表枠を目指して対局した。男子個人戦の参加者数は史上最多かも知れない。

男子は初めからトーナメント戦である。5回戦まで終わるとベスト16が出そろい、そこで再抽選してA Bの2組に分かれ、それぞれのトーナメントの優勝者が県代表となる。A組決勝は木村隼己君（豊田高専2年）と瀬野泰平君（愛工大名電2年）の対戦となった。木村君の向飛車に瀬野君は飯島流引き角を採用。中盤から難解な攻防が繰り広げられ、終盤でもお互いに相手に決め手を与えない、力のこもった大熱戦になった。20人ほどのギャラリーが見守る中、この戦いを189手で木村君が制した。B組の決勝に進出したのは水谷悠人君（豊田西2年）と河合勇樹君（岡崎1年）で、水谷君が向飛車に振って角を交換し、桂跳ねから飛車先を逆襲。桂馬を取り返してからは、後手の陣地の隙を逃さず寄せきった。今回の男子個人戦では三河勢の活躍が目立った。

女子は「8名以下は総当たり」という内規により、7名による総当たりリーグ戦を行った。全国大会上位常連の木村野乃花さん（津島3年）が、6戦全勝で本大会3連覇を果たした。2位は木村さんに敗れただけの水野智花さん（南山女子部3年）、3位は平田瑞貴さん（松蔭3年）だった。現在3年生の世代に強豪が多くいたため、秋の新人大会は1・2年生にとって活躍のチャンスとなるだろう。

～男子個人戦トーナメント（ベスト16以降）～



今年の高校将棋選手権全国大会（全国高校総合文化祭将棋部門）は、長野県千曲市で8月9日、10日に開催される。愛知県代表となった明和、南山女子部の各校、木村君、水谷君、木村さん、水野さんの活躍に期待している。

（以上、日本将棋連盟東海普及連合会HPより抜粋）